

令和元年度

観光入込客数状況

稚内市

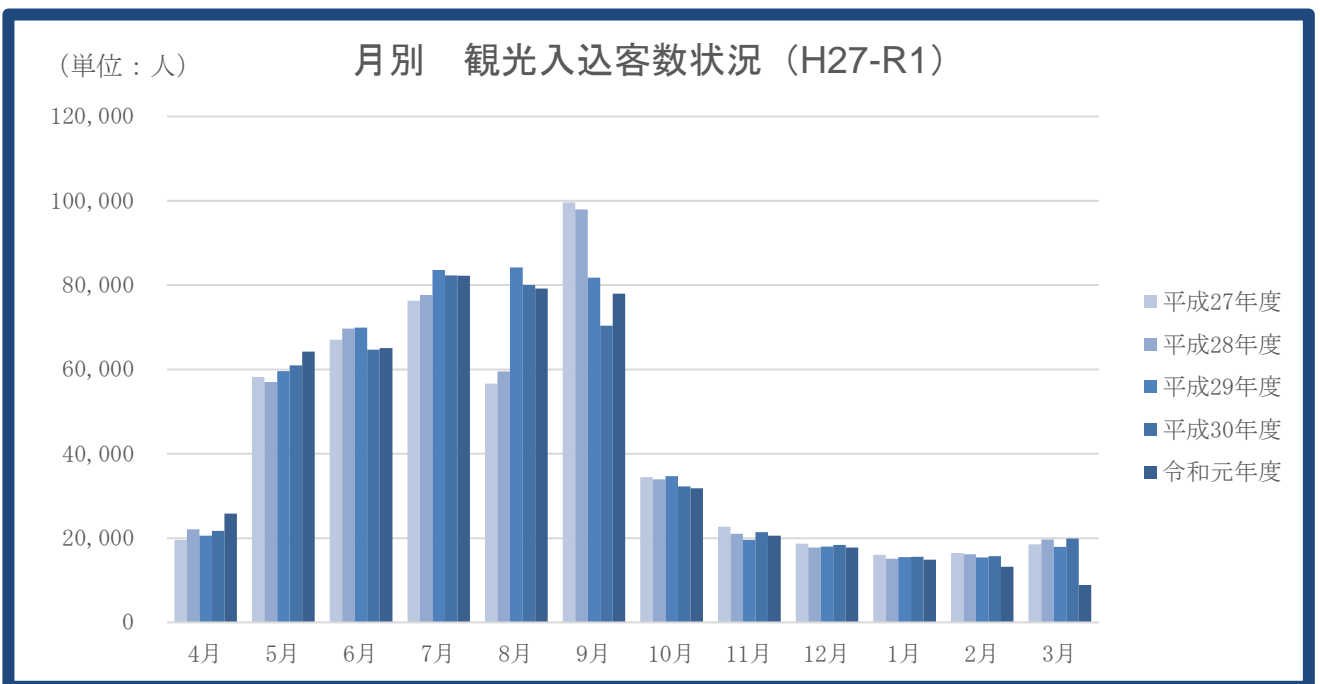
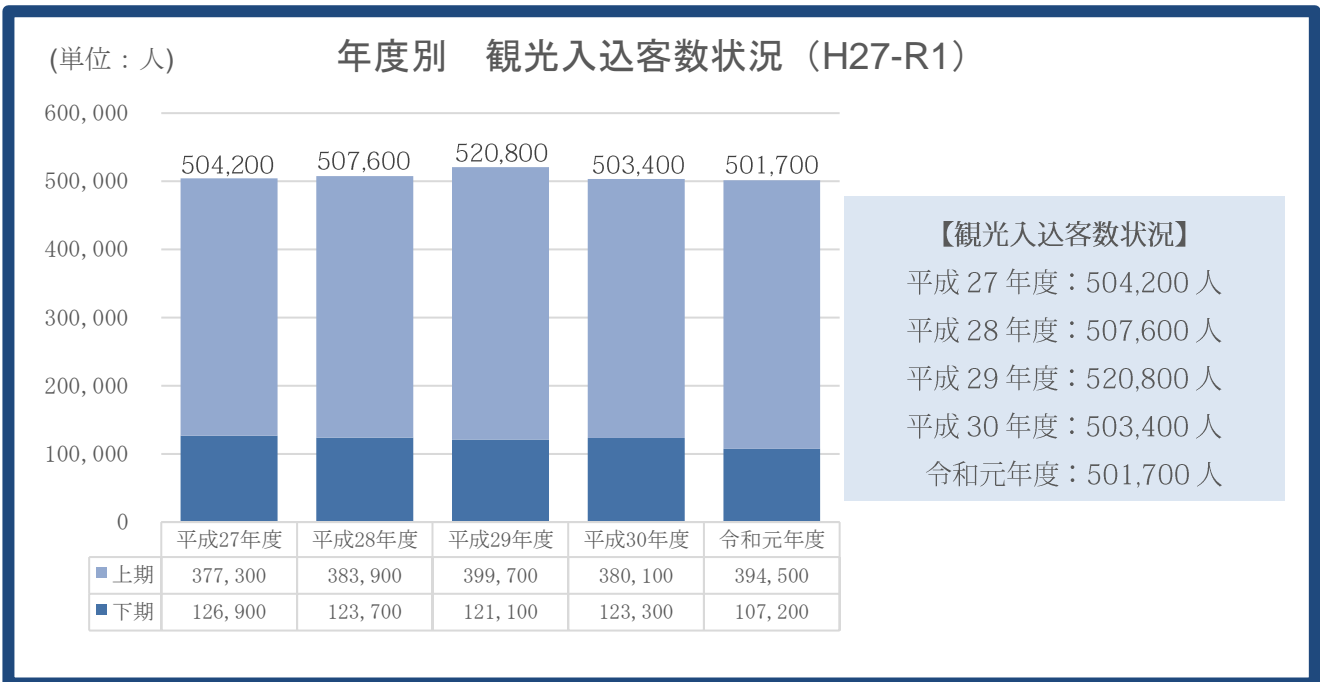
令和元年度 稚内市の観光入込客数状況について

I. 本市の観光入込客数の概要について

令和元年度観光入込客数は、総数 501,700 人で、前年の 503,400 人より 1,700 人、0.3%の減となった。

【上期】 394,500 人で、前年の 380,100 人より 14,400 人、3.8%の増となった。

【下期】 107,200 人で、前年の 123,300 人より 16,100 人、13.1%の減となった。

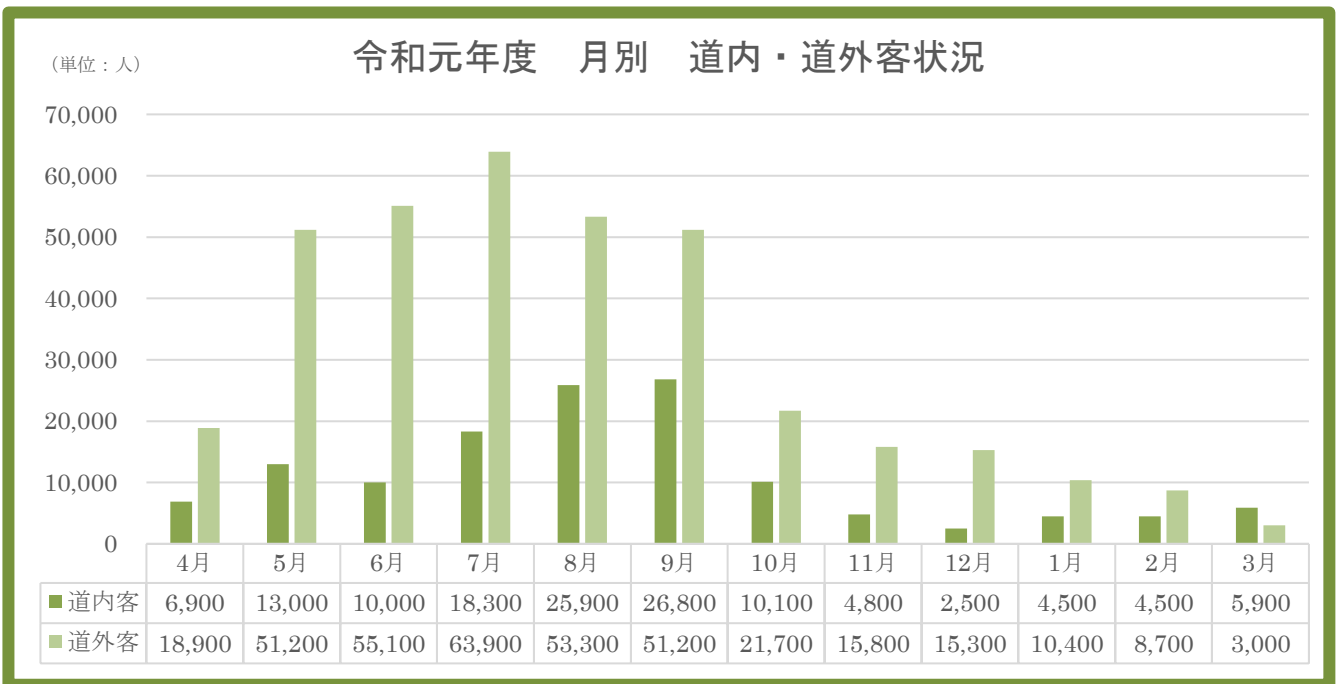
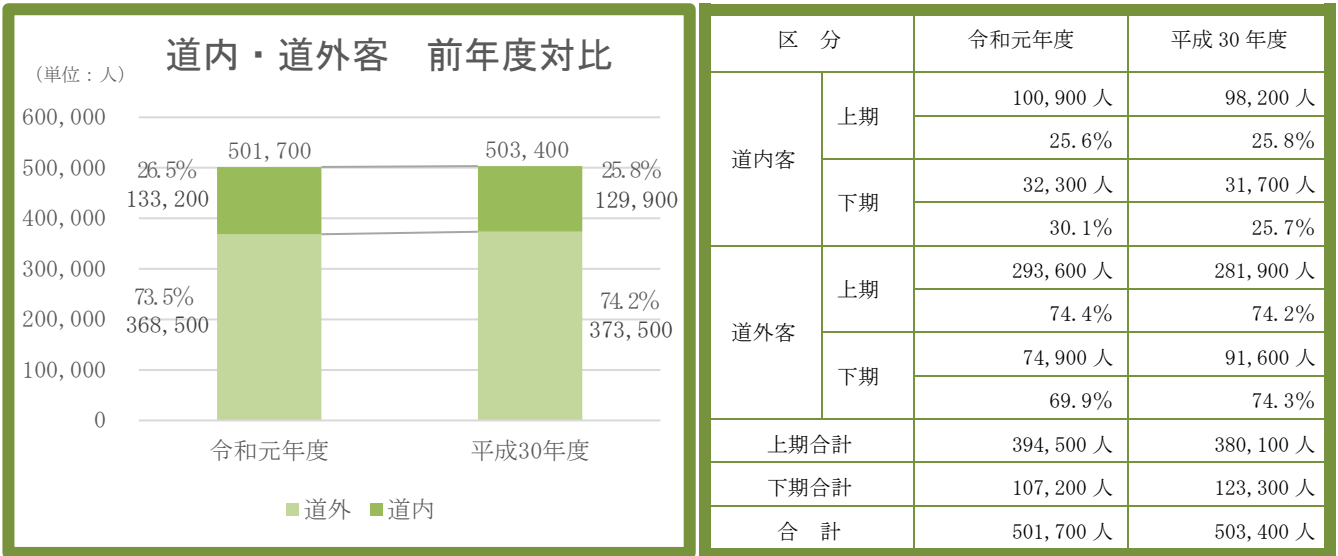


(1) 道内客・道外客の状況

道内客が 133,200 人で前年の 129,900 人より 3,300 人、2.5%の増、道外客が 368,500 人で前年の 373,500 人より 5,000 人、1.3%の減となった。

【上期】道内客が 100,900 人で前年の 98,200 人より 2,700 人、2.7%の増、道外客が 293,600 人で、前年の 281,900 人より 11,700 人、4.2%の増となった。

【下期】道内客が 32,300 人で前年の 31,700 人より 600 人、1.9%の増、道外客が 74,900 人で前年の 91,600 人より 16,700 人、18.2%の減となった。道外客の減少は 3 月が著しい(前年度より 9,900 人減)。



(2) 日帰り客・宿泊客の状況

日帰り客の状況は203,200人で前年の200,100人より3,100人、1.5%の増となった。

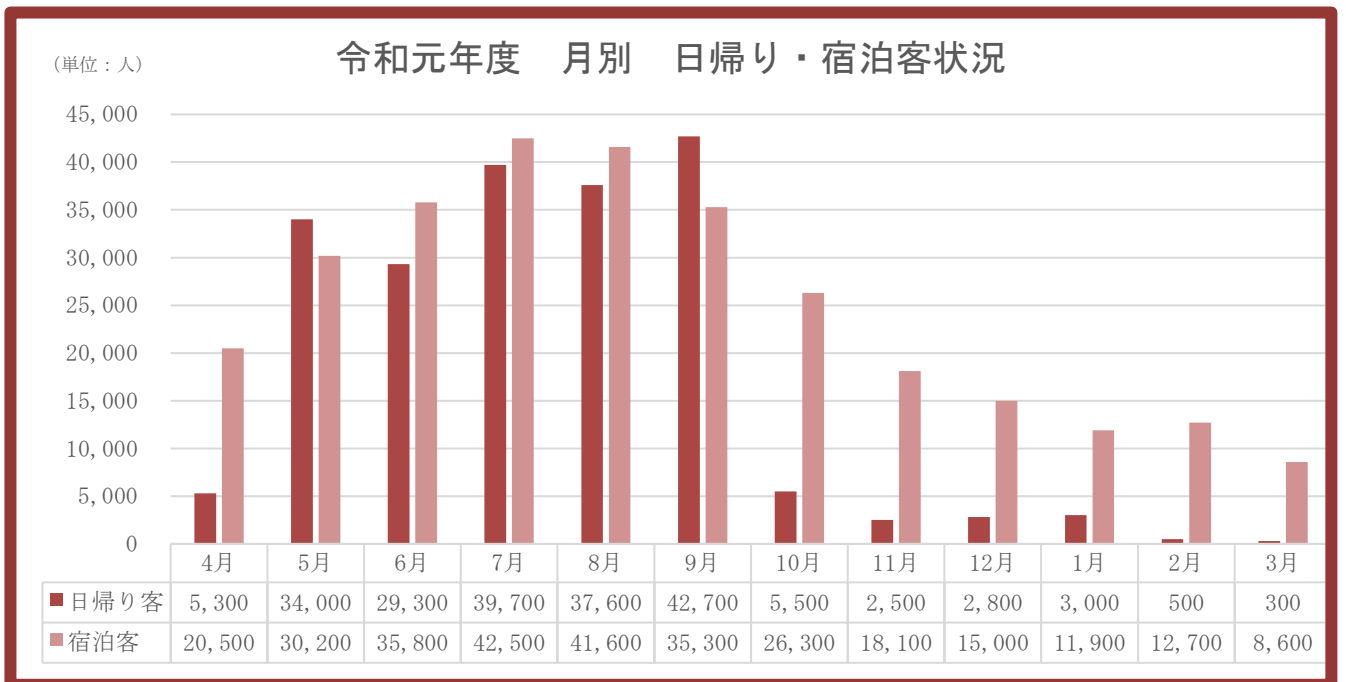
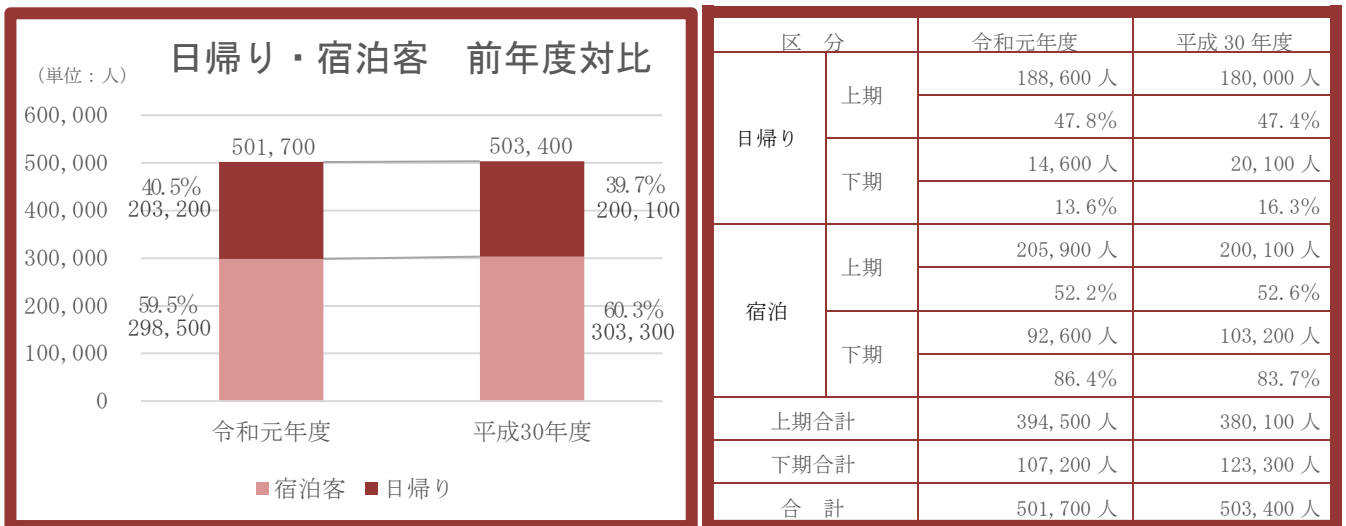
【上期】188,600人で前年の180,000人より8,600人、4.8%の増となった。

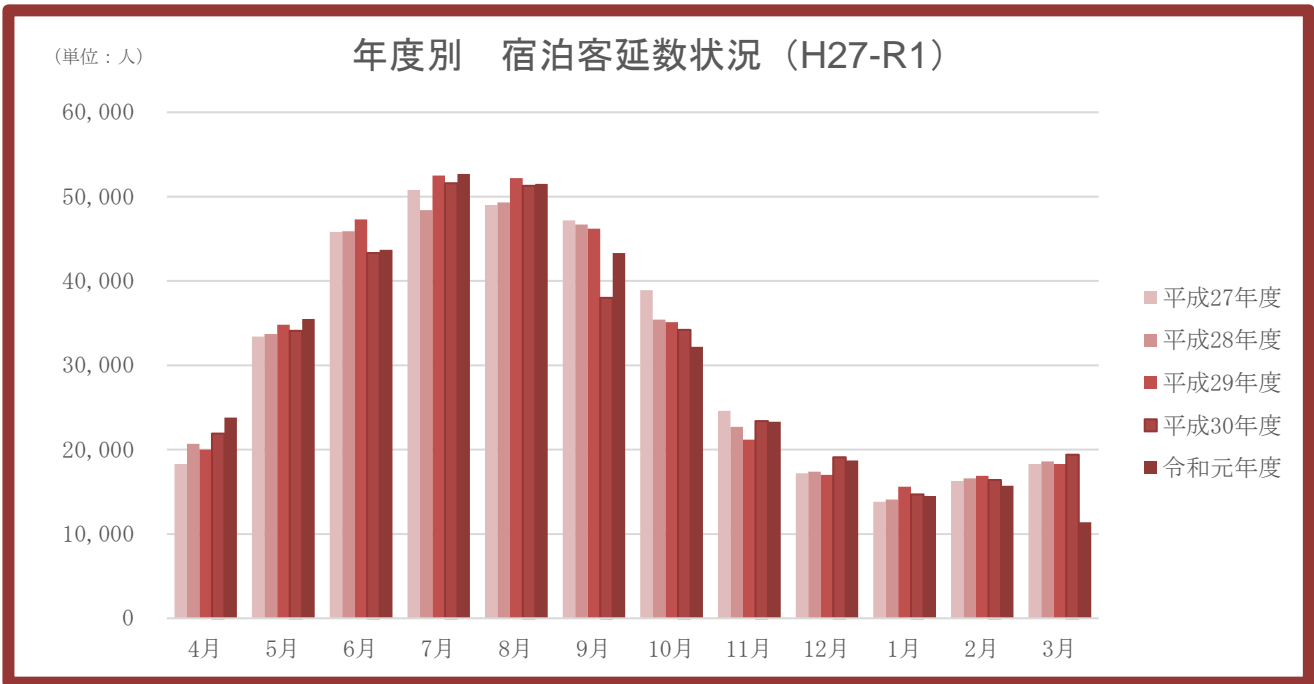
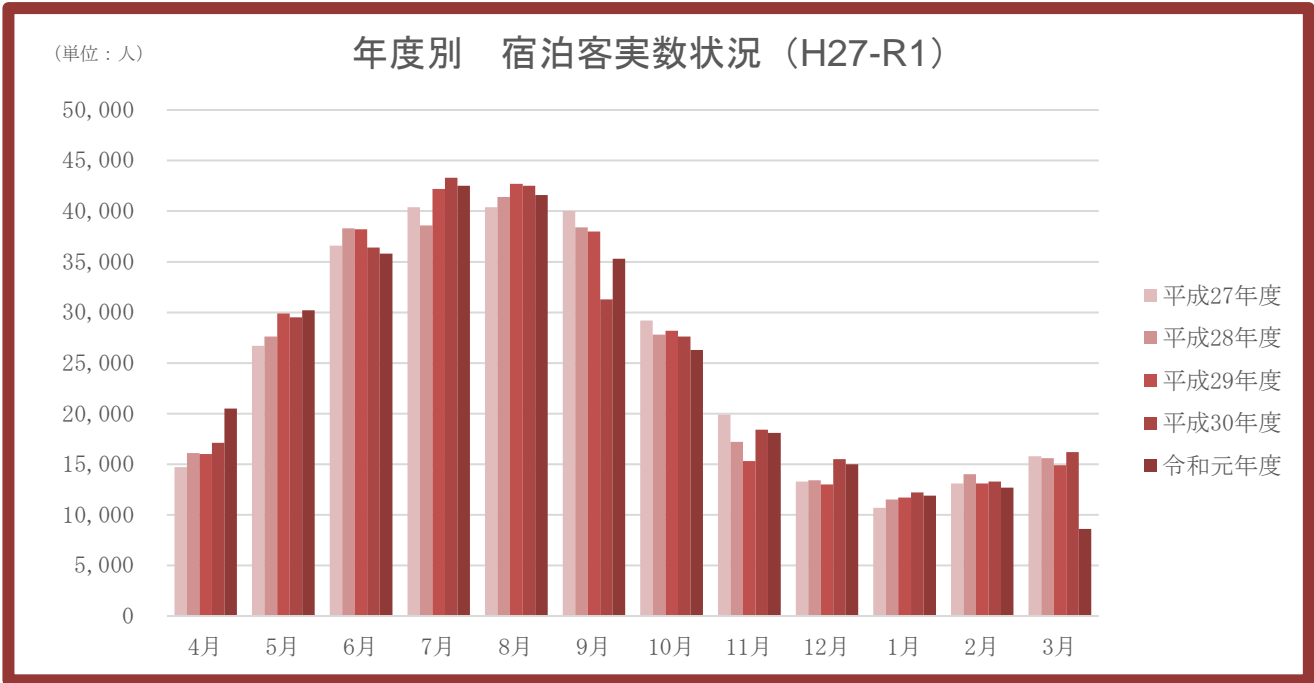
【下期】14,600人で前年の20,100人より5,500人、27.4%の減となった。

宿泊客の状況は298,500人で前年の303,300人より4,800人、1.6%の減となった。また、宿泊客延数は、366,300人で前年の367,400人より1,100人、0.3%の減となった。

【上期】宿泊客の状況は205,900人で前年の200,100人より5,800人、2.9%の増となった。また、宿泊客延数は250,500人で前年の240,200人より10,300人、4.3%の増となった。

【下期】宿泊客の状況は92,600人で、前年の103,200人より10,600人、10.3%の減となった。また、宿泊延数は115,800人で、前年の127,200人より11,400人、9.0%の減となった。





【宿泊客状況 (実数)】

	上期	下期	合計
平成27年度	198,800人	102,000人	300,800人
平成28年度	200,400人	99,500人	299,900人
平成29年度	207,000人	96,200人	303,200人
平成30年度	200,100人	103,200人	303,300人
令和元年度	205,900人	92,600人	298,500人

【宿泊客状況 (延数)】

	上期	下期	合計
平成27年度	244,500人	129,100人	373,600人
平成28年度	244,700人	124,800人	369,500人
平成29年度	253,000人	124,100人	377,100人
平成30年度	240,200人	127,200人	367,400人
令和元年度	250,500人	115,800人	366,300人

(3) 外国人宿泊客の状況

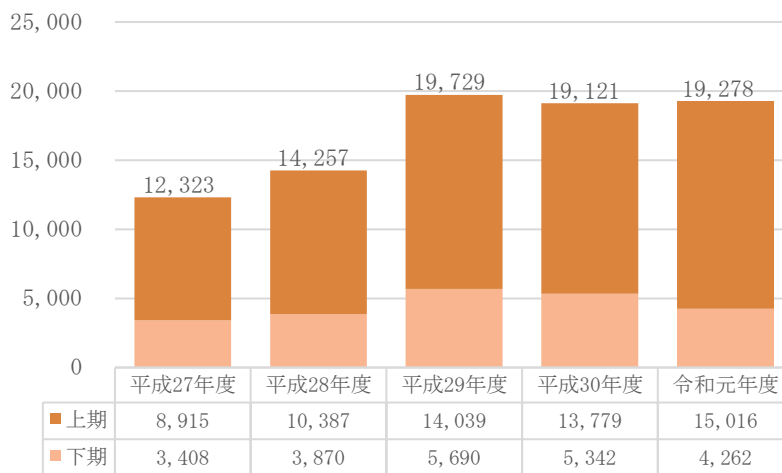
外国人宿泊客延数については宿泊延数 19,278 人で前年の 19,121 人より 157 人、0.8%の増となった。宿泊客の国別内訳としては、台湾が 5,876 人、30.5%と最も多く、続いて香港が 3,954 人、20.5%、中国が 2,508 人、13.0%となり、その他アジア諸国を含めると、8割近くがアジアからの観光客であった。

【上期】宿泊延数 15,016 人、前年の 13,779 人より 1,237 人、8.9%の増加となった。宿泊者の国別内訳としては、台湾が 5,320 人、35.4%と最も多く、続いて香港が 2,827 人、18.8%、中国が 1,930 人、12.9%となった。

【下期】宿泊延数 4,262 人、前年の 5,342 人より 1,080 人、20.2%の減となった。宿泊者の国別内訳としては香港が 1,127 人、26.4%と最も多く、続いて中国が 578 人、13.6%、台湾が 556 人、13.0%となった。

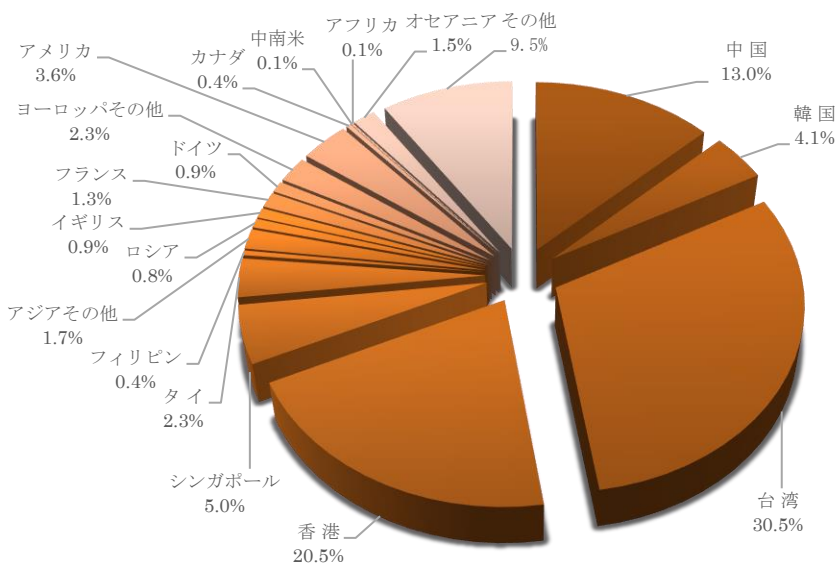
(単位：人)

年度別 外国人宿泊客延数 (H27-R1)



【外国人宿泊客延数状況】

平成 27 年度：12,323 人
 平成 28 年度：14,257 人
 平成 29 年度：19,729 人
 平成 30 年度：19,121 人
 令和元年度：19,278 人



【R1 外国人宿泊客国別況】

	上期	下期	合計
1 位	台湾 35.4%	香港 26.4%	台湾 30.5%
2 位	香港 18.8%	中国 13.6%	香港 20.5%
3 位	中国 12.9%	台湾 13.0%	中国 13.0%

Ⅱ. 観光客動態調査分析（アンケート分析）

☆注意☆

前章で用いたデータ値は、交通データやホテル旅館業への聞き取り調査をもとにしている。一方、この章で用いているデータ値は、観光客への直接的なアンケート調査の割合を基として算出したものであるため、前章の分析結果と若干の差が生じる。

（１）地域別観光客の入込状況

①道内観光客の入込状況

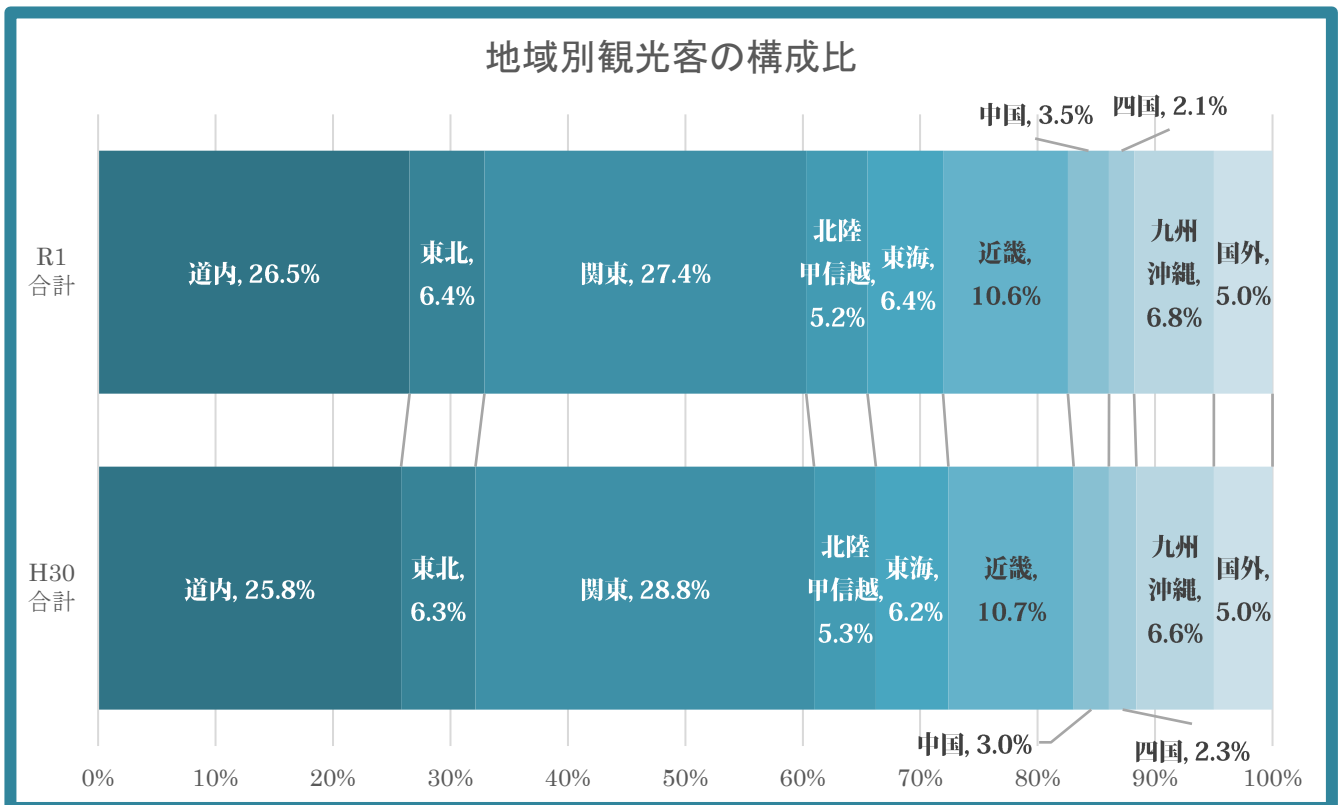
道内観光客の増加要因（0.7%増）は、年間を通して、自家用車やレンタカー、バイクや自転車など公共交通機関を利用しない形の旅行が増加していることとあわせ、3月の新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた道外観光客の減少により、相対的に道内観光客が増加したと考えられる。

②道外観光客の入込状況

道外観光客の減少要因（0.7%減）は、下期の2月後半から3月にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により旅行の自粛が影響していると推測できる。

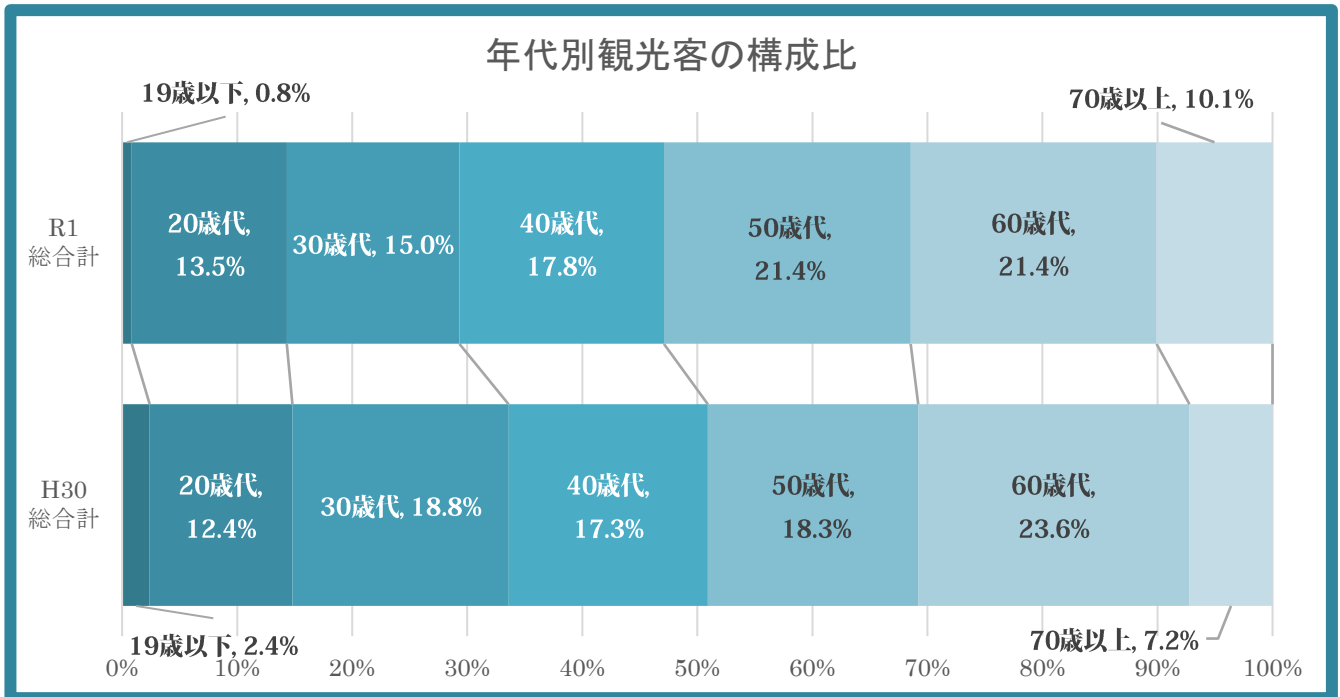
③外国人観光客の入込状況

外国人観光客の変動がない要因は、下期の新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた入込数の減少が、上期の増加分を相殺したためである。なお、上期は過去5年間で最多となった。これは周遊ルート事業や国の訪日プロモーション地域連携事業による外国メディアやインフルエンサーの招請により、海外において当市の認知度が上がりつつあるためと考えられる。



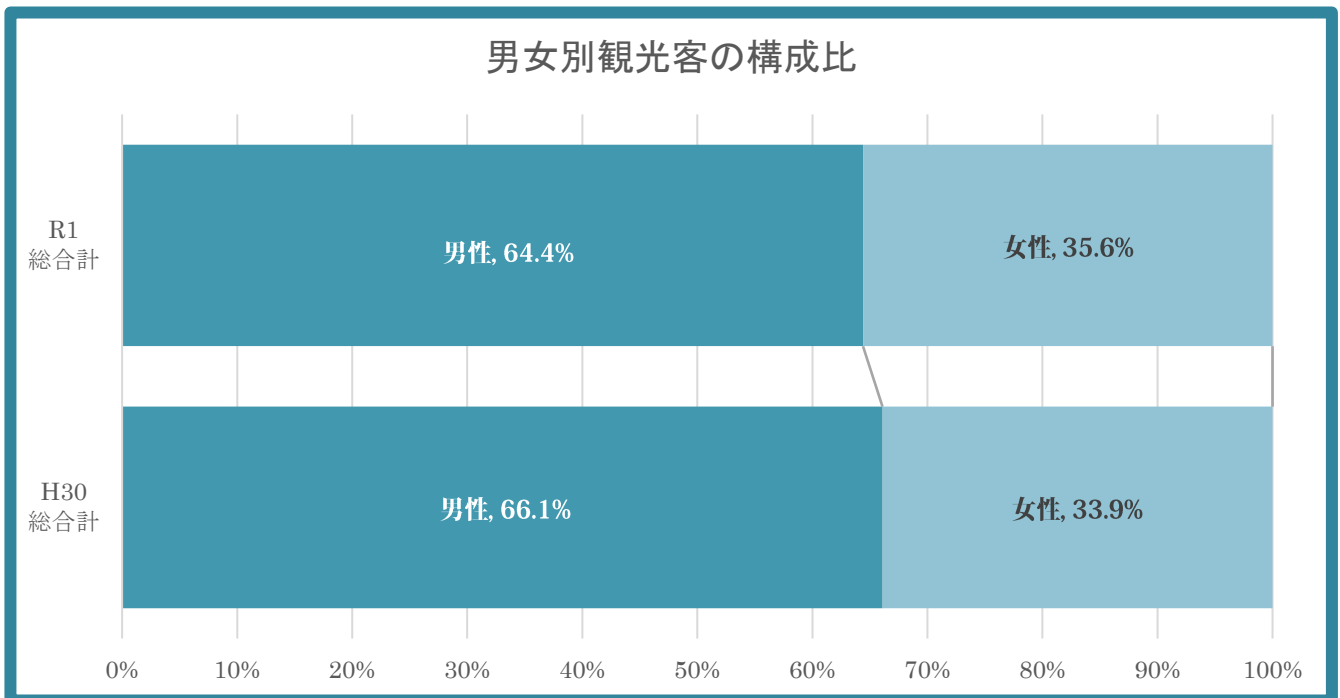
(2) 年代別観光客の入込状況

年代別観光客の入込状況は、50歳代が3.1%増加、70歳以上が2.9%増加した一方、40歳未満の年代の割合が4.3%減少している。



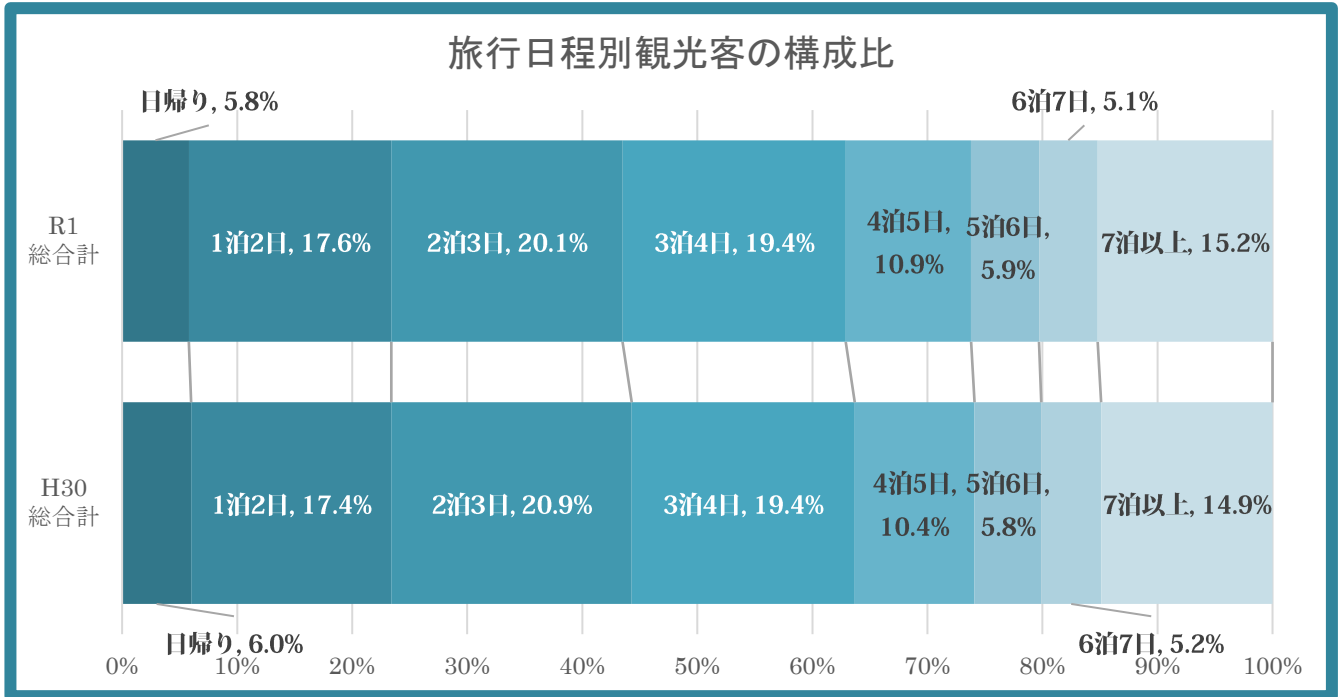
(3) 男女別観光客の入込状況

男女別観光客の入込状況は、男性が64.4%、女性が35.6%と、依然男性客の割合は多いが、昨年度より女性が占める割合が1.7%増加している。なお、女性の割合が増えるのは3年連続である。



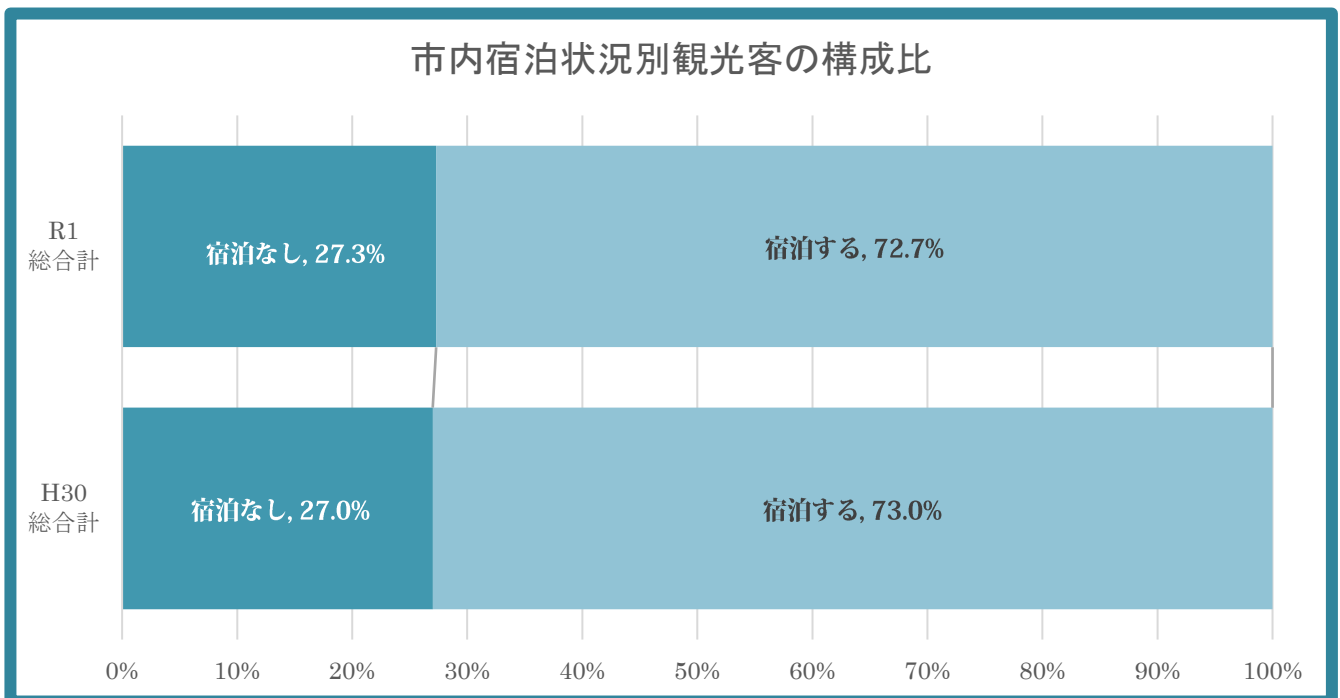
(4) 旅行日程別観光客の入込状況

旅行日程別観光客の入込状況は、2泊3日の割合が20.1%と最も大きく、次いで、3泊4日が19.4%、1泊2日が17.6%であった。また、4泊以上の長期旅行者の割合が37.1%であった。なお、この調査は観光客の旅行日程別調査であり、宿泊日数別調査の結果は(6)を参照のこと。



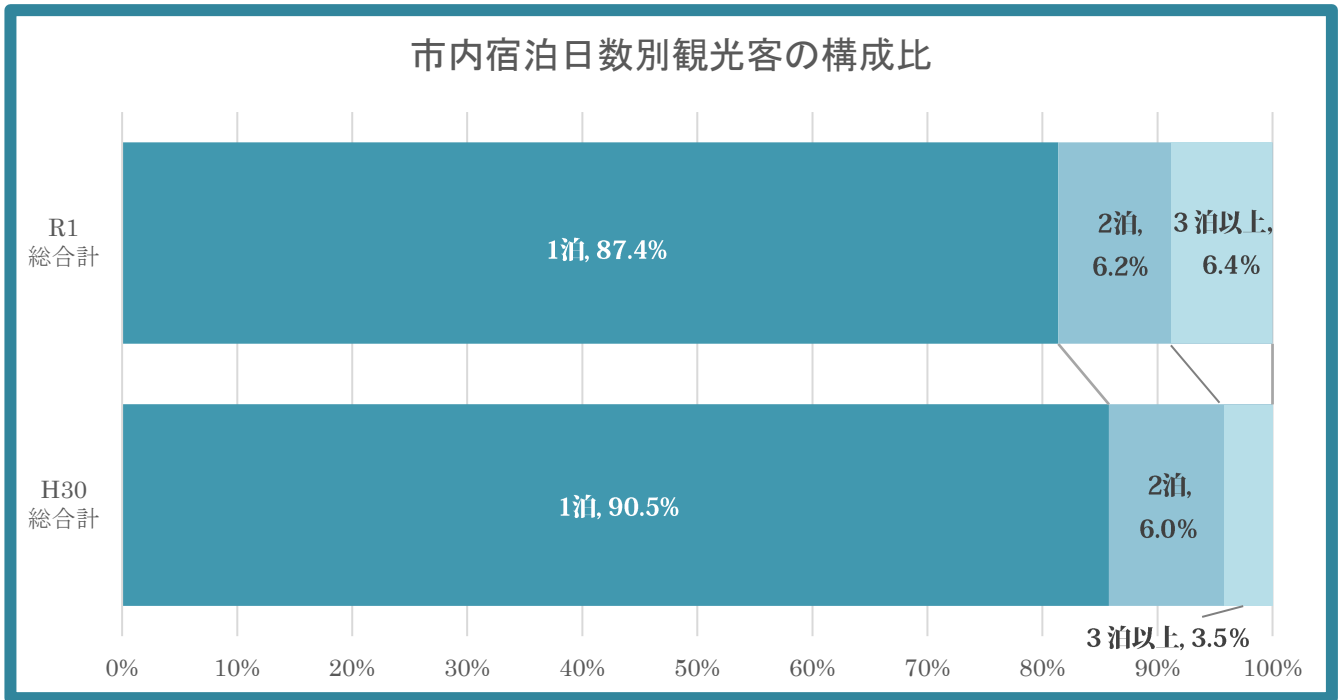
(5) 市内宿泊状況別観光客の入込状況

市内宿泊状況別観光客の入込状況は、本市に宿泊すると答えた旅行者の割合は0.3%減少し、72.7%であった。



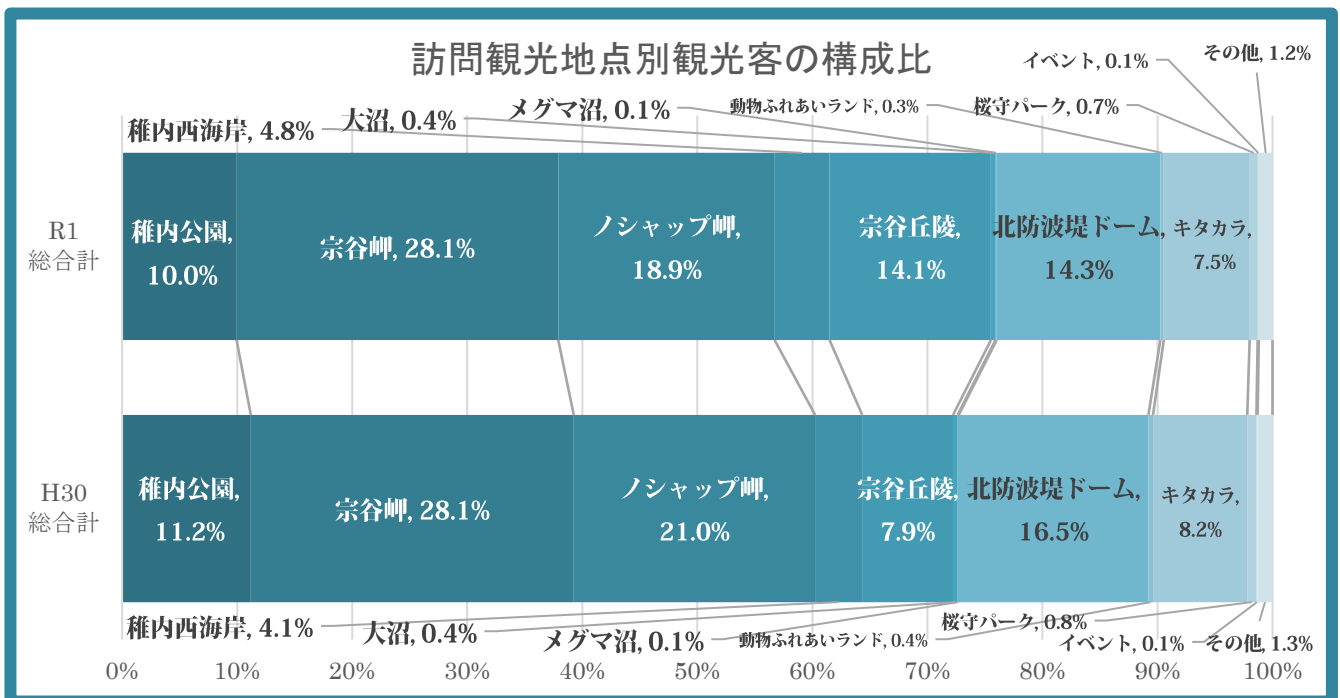
(6) 市内宿泊日数別観光客の入込状況

市内宿泊日数別観光客の入込状況は、本市に宿泊する旅行者のうち、1泊の割合が3.1%減少し、それ以外(2泊以上)の旅行者が3.1%上昇した。



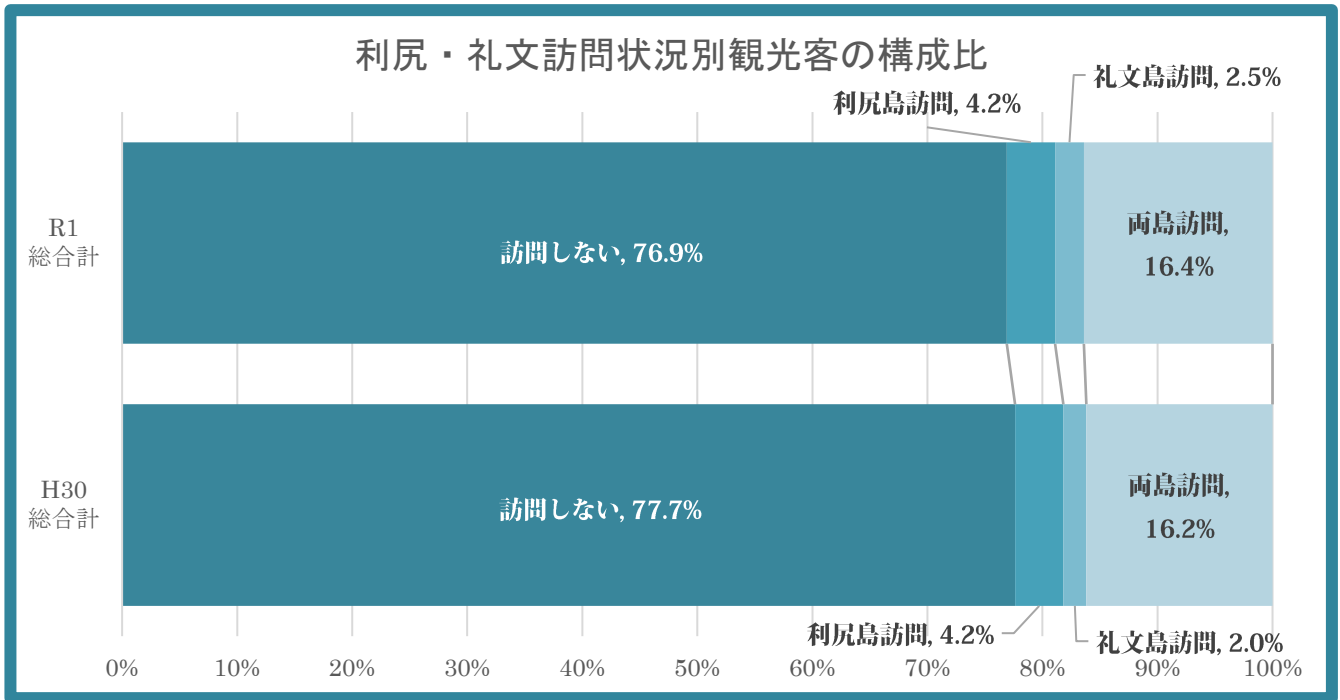
(7) 訪問観光地点別観光客の入込状況

訪問観光地点別観光客の入込状況は、宗谷岬が28.1%、ノシャップ岬が18.9%、北防波堤ドームが14.3%、稚内公園が10.0%となり、この主要4地点で全体の7割以上を占めている。また、宗谷丘陵は前年度の6.2%と大幅に増加し、14.1%となった。



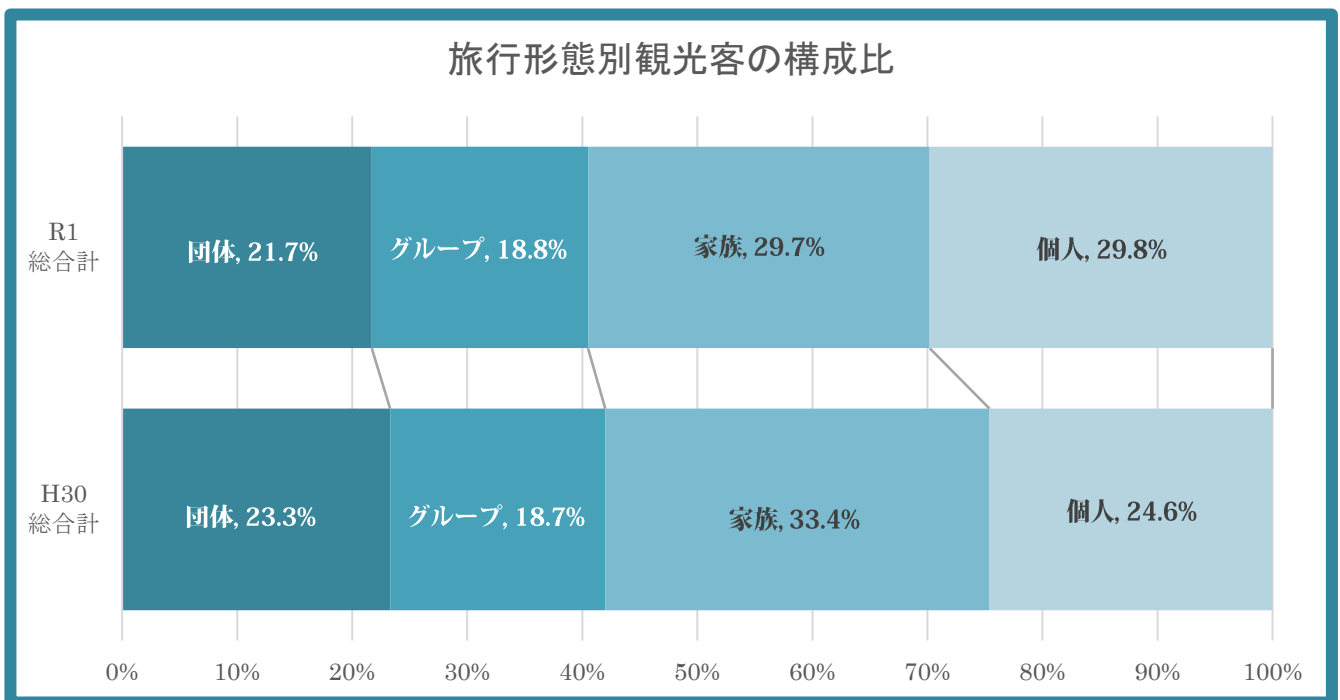
(8) 利尻・礼文訪問状況別観光客の入込状況

利尻・礼文訪問状況別観光客の入込状況は、本市の観光ポイントを訪れる旅行者のうち、両島を訪問しないと答えた旅行者の割合が0.8%減少している。



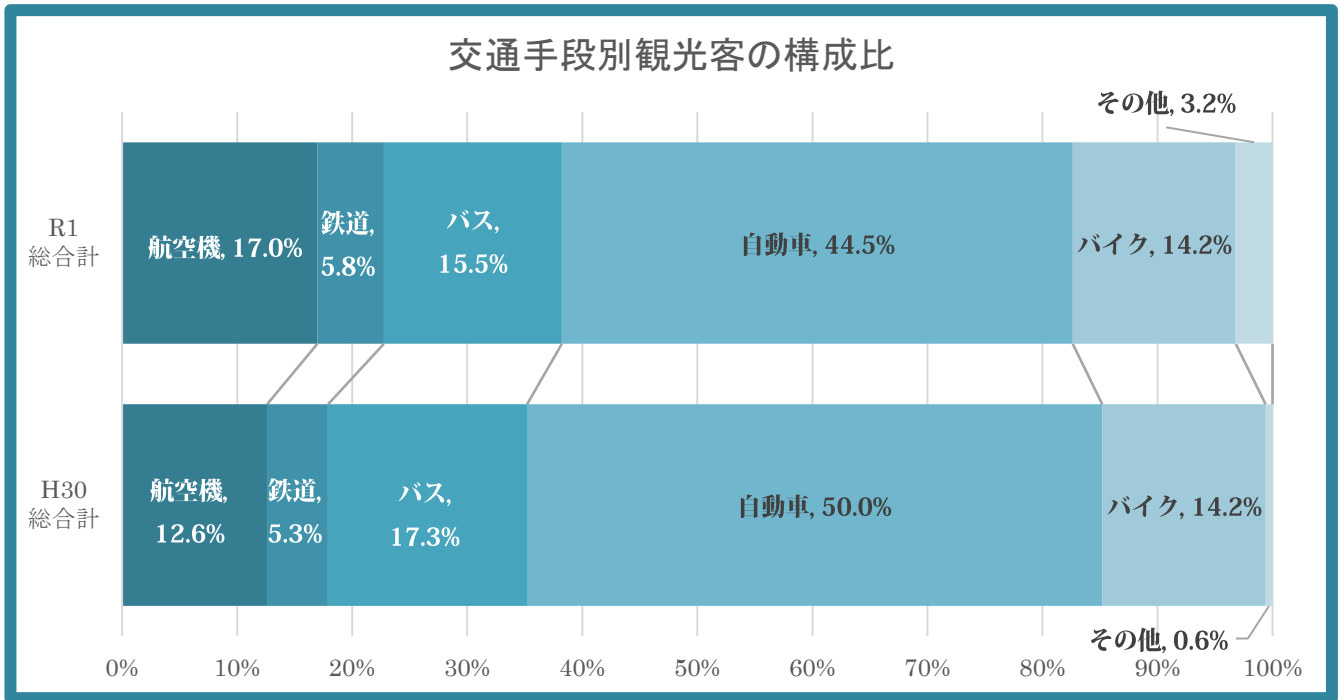
(9) 旅行形態別観光客の入込状況

旅行形態別観光客の入込状況は、個人旅行が5.2%増加した。一方、団体旅行が1.6%減少、家族旅行が3.7%減少した。



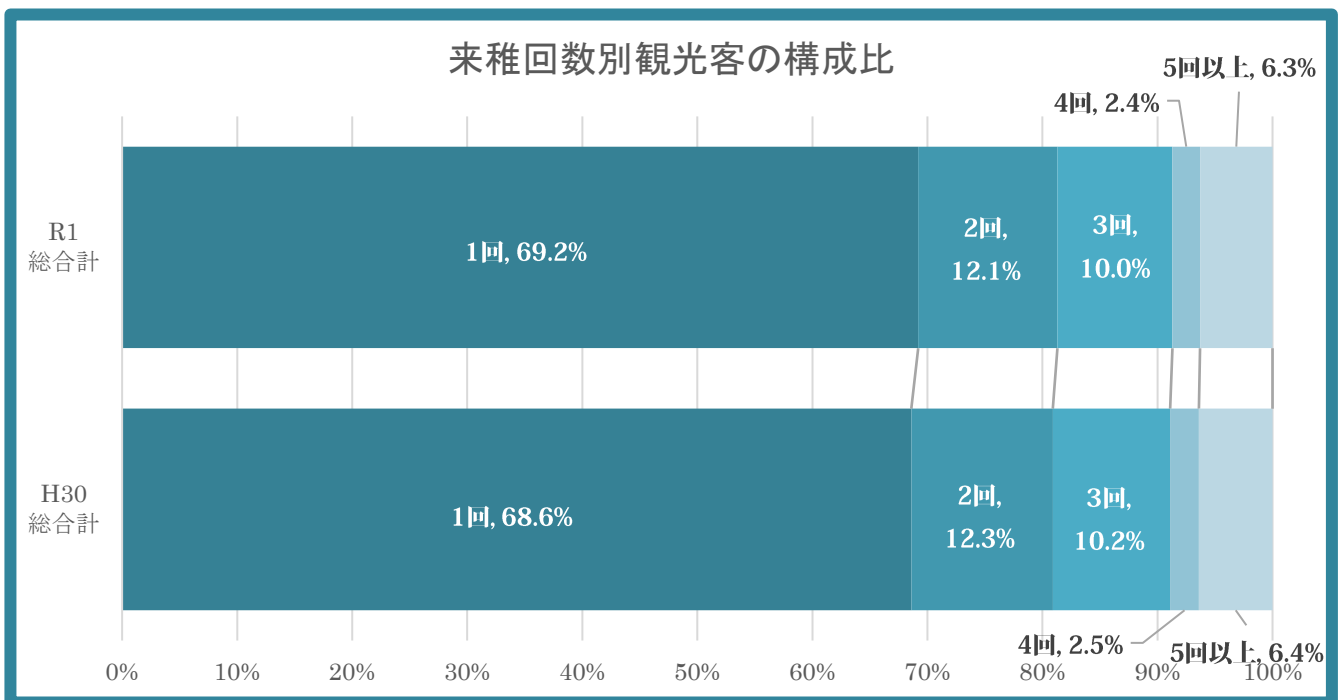
(10) 交通手段別観光客の入込状況

交通手段別観光客の入込状況は、航空機が4.4%増加し、自動車が増減した。一方、その他が2.6%増加しており、これは自転車や徒歩を手段としたものと考えられる。



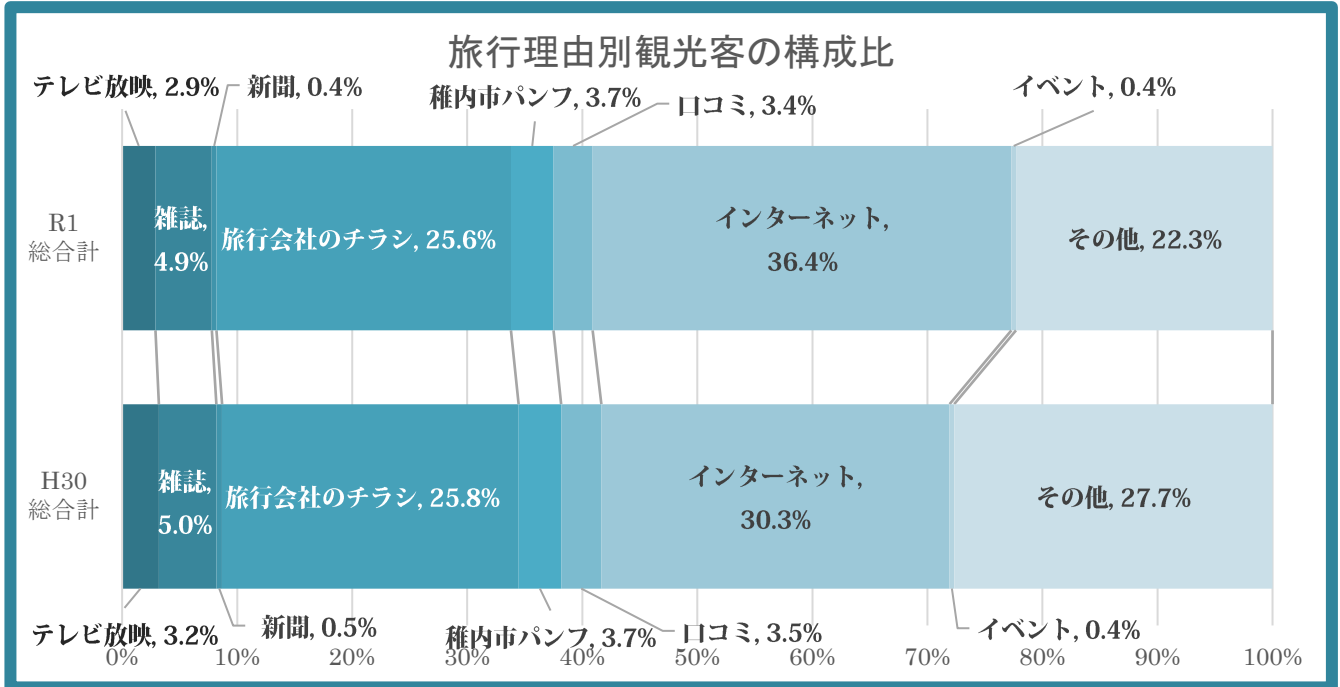
(11) 来稚回数別観光客の入込状況

来稚回数別観光客の入込状況は、初めて本市に訪れた旅行者の割合が全体の約7割となっていることから、「日本のおてっぺん」への認知度や関心は高いと推測される。



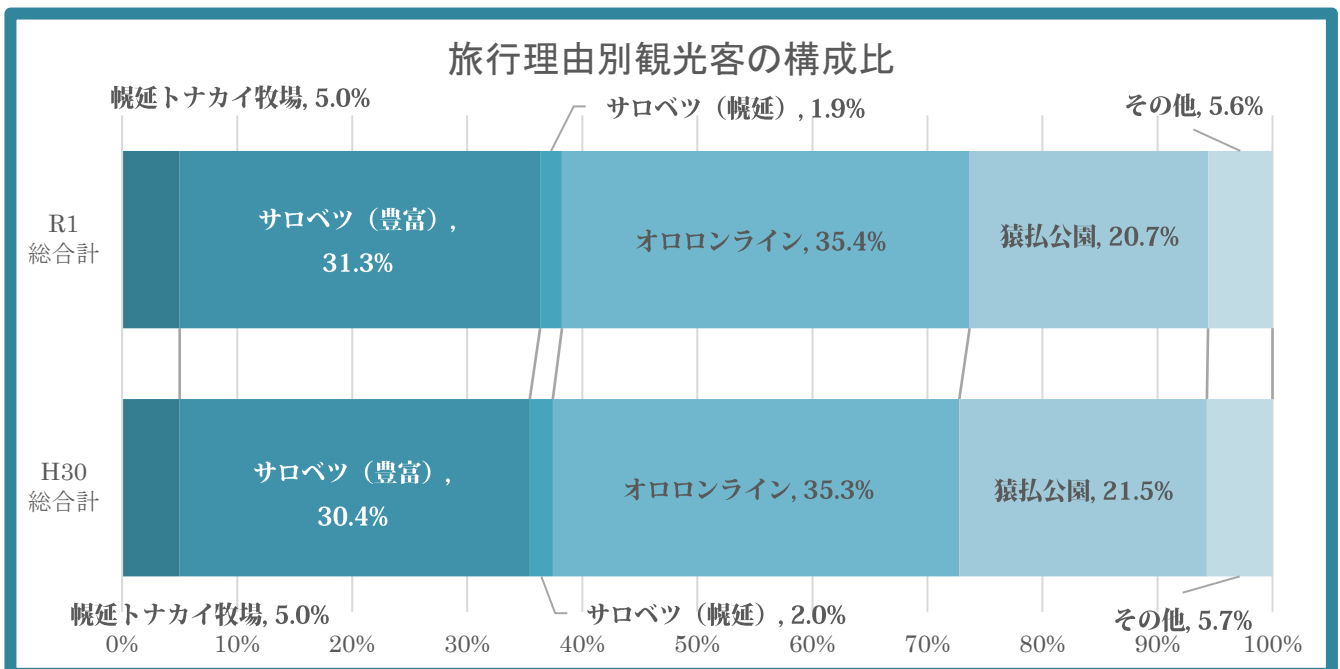
(12) 旅行理由別観光客の入込状況

旅行理由別観光客の入込状況は、テレビ、雑誌、新聞などのマスメディアがいずれも若干減少した。その一方、インターネットが6.1%増加した。また、稚内市パンフレットの変動はないが、テレビと同程度であることから、情報発信媒体としての影響力が高いと考えられる。



(13) 近隣市町村観光地点訪問状況別観光客の入込状況

近隣市町村観光地点訪問状況別観光客の入込状況は、全体的に変動はあまりなかった。サロベツ(豊富)、オロロンライン、猿払公園が9割を占めている。その理由は、道内の主要都市を結ぶ国道40号線や238号線、道道106号線の沿線に位置することから、移動中に訪問がしやすいためと考えられる。



Ⅲ. 総合的な検証について

(1) 令和元年度の観光入込の要因(分析)

【年間総括】

令和元年度観光入込客数は、前年度と比較すると1,700人(0.3%)減の501,700人となり5年連続で50万人を超えた結果となった。上期は前年度と比較して14,400人(3.8%)増の394,500人であり、北海道胆振東部地震発生以前の一昨年と同程度まで回復した。一方、下期は16,100人(13.1%)減の107,200人となり、上期の増加分を下期の減少分が上回る結果となった。下期の減少の主な理由は、少雪による2月の冬季イベントの中止、3月は新型コロナウイルスの感染拡大による旅行自粛の影響があったと考えられる。

外国人観光客については、延べ宿泊数は19,278人泊となり、前年度と比較して157人泊(0.8%)の増加となった。特に、上期は過去5年間で最多の15,016人泊、前年度と比較して1,237人泊(8.9%)増加となった。その理由は、これまで実施してきた海外メディアやインフルエンサーの招請、現地観光プロモーションなど、関係機関と連携した誘客活動の効果があったとみられる。一方、下期は1,080人泊(20.2%)の減となり、4,262人泊にとどまった。その理由は、新型コロナウイルス感染拡大による渡航自粛であると考えられる。

【上期】

令和元年度上期の観光入込客数は、総数394,500人で、前年の380,100人より14,400人、3.8%の増となり、上期としては増加となった。

主な増加の要因としては、平成30年度の上期は、西日本での豪雨災害や、北海道胆振東部地震以降、観光客の入込数が落ち込んだが、今年度は、ゴールデンウィークが10連休と例年より大型化したことで旅行需要が高まったことや、関係機関と取り組んできた旅行会社へのプロモーションなど、誘致活動の効果により、一昨年と同程度まで回復した。

月ごとの状況としては、4月・5月の観光入込客数は前年度と比較すると大型連休により増加していたが、6月～8月は全国的に被害をもたらした台風や大雨の影響によるツアーのキャンセルなどが影響し、僅かに減少となった。9月については、前年度の「北海道胆振東部地震」に伴う宿泊施設やツアーの予約キャンセルや、風評被害もあり観光客が大幅に減少したが、令和元年度は、風評被害も払拭され増加となった。

また、外国人観光客状況としては、国際情勢の影響が懸念されたが、延べ宿泊数は1万5,016人で、前年より1,237人、9%の増加となり、特に台湾、香港といった東アジア、また、新たにアメリカなど欧米豪からの観光客が軒並み伸びていることは、これまでインバウンド対策として取り組んできた、広域観光周遊ルート事業をはじめ、海外メディア、旅行関係者招請等による当地域の情報発信や、各観光関係団体と連携した観光客誘致の取り組みの効果が出始めたものと推察される。

上期の主な取り組みとして、誘客施策においては、本市及び北宗谷の各地域と連携し、観光関係団体・協議会等において実施した、国内の旅行会社や航空会社へのプロモーション、旅行イベント出展などで当地のPRを積極的に行った。

受入体制づくりでは、本市の新たな観光客の立ち寄り箇所となった「北の桜守パーク」で、「北の桜守パーク祭り」を「市民植樹祭」と同時に開催し、施設の魅力向上のため桜の植樹を実施、昨年引き続き礼文町の「北のカナリアパーク」との連携したスタンプラリーを実施するなど、道北地域の周遊観光資源としての活用を図った。また、個人旅行客の更なる受入体制充実を図るべく、着地型コンテンツの創出に向けた取り組みとして、7月から9月まで宗谷岬展望施設にツアーセンター「Base Soya（ベースソウヤ）」を開設し、宗谷岬を滞在型観光地とする取り組みや、地元ドライバーガイドとめぐる宗谷丘陵、白い道ウォークツアーとして商品造成を行った。このほかには、昨年に引き続き「温泉ガストロノミーウォーキング」や、「レストランバス」の運行を実施するなど、コンテンツの創出を探る取組を実施した。合わせて、今後に向けた本市の新たな観光施策として、自然景観や建築物など、本地域の豊富なロケーション資源を活かし、撮影を誘致することを目的とした「わっかないフィルムコミッション」を設立。撮影誘致による関係者が滞在することに伴う経済効果や、昨年オープンした「北の桜守パーク」のような映像作品や、テレビ、CMなどによる新たな観光資源を創出し、地域活性化を今後図っていく。

外国人観光客（インバウンド）の誘客促進については、広域観光周遊ルート「日本のてっぺん。きた北海道ルート。」事業をはじめ、国・北海道とも連携した各事業において、空港をゲートウェイとした観光地づくりとして、台湾、香港、シンガポール、欧米等の旅行会社やメディア関係者を招請し、商品造成や情報発信の取り組みを行った。他に、市内観光地のトイレの洋式化を行うなど外国人観光客へのストレスフリーな受入体制づくりを図った。

【下期】

令和元年度の下期観光入込客数は、総数107,200人で、前年の123,300人より16,100人、13.1%の

減となった。また、外国人観光客の延べ宿泊数は4,262人泊で前年より1,080人泊、20.2%の減となった。

月ごとに見ると、10月は台風19号、11月及び12月は悪天候による交通機関の欠航や運休などが影響しており、1月、2月は前年度の北海道胆振東部地震によって落ち込んだ観光客を呼び戻すために行われた「ふっこう割」による反動減があったことのほか、特に全国的な少雪による全国犬ぞり稚内大会などの冬季イベントの中止や短縮に加え、2月以降、新型コロナウイルスによる観光旅行の自粛が出始め、特に3月は大幅に入込が減少した。冬観光の主要コンテンツとなったサハリン館もその影響を受け、今年度は実施期間の縮小を余儀なくされた。

下期の主な取組として、1月の初日の出inてっぺんをはじめ、2月の道立宗谷ふれあい公園スノーランドでの冬体験イベントを、今年度も開催した。特に雪上車体験においては、新たにツアー旅行者に向けた大沼氷上での海鮮焼の提供を試行的に実施した。また、インバウンド誘客においては、10月にわからない観光活性化促進協議会が主催したシンガポールプロモーションにおいて、現地観光セミナーや、旅行会社への訪問など、新規市場開拓にも積極的に取組んだ。

将来に向けた取り組みとして、「稼ぐ観光地域づくり」を目指し稚内市を含む北宗谷地域6市町村の観光協会や関係団体、交通機関、自治体等が広域観光の取り組みを行う「地域連携DMO」の設立を進めている。北宗谷全域での広域連携による地域経済の活性化を目指し、組織構築や戦略づくりなどに取組んでおり、令和2年度も引き続き取り組むこととしている。

(2) 今年度の傾向と今後について

本入込調査から見る令和元年度の傾向としては、訪問観光地別割合において宗谷丘陵を訪れた観光客が14.1%となり、前年度と比較し6.2%の増となった。これは、ここ数年プロモーションとして白い道のPRを強化していることや、テレビ等で放送されるなどにより認知度が向上したためと考えられる。また、旅行理由別割合ではインターネットによる情報収集と回答した割合が3年連続増加している（平成29年26.8%、平成30年30.3%、令和元年36.4%）。これは本市のインターネットによる情報発信の強化や、スマートフォンやタブレット端末の全国的な利用者増によるものとみられる。さらに、観光客の男女別割合では、3年連続女性の割合が増加している（平成29年28.0%、平成30年33.9%、令和元年35.6%）。これらのデータも活用し、今後も観光客のニーズに沿ったプロモーションの展開が必要と考える。

今後については、すでに大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症により、令和2年度全体において入込客数や宿泊客数など、相当厳しい状況が想定される。先行きが見えない中ではある

が、令和元年度上期の入込数においての前年度（胆振東部地震の影響）からの回復ぶりから、国内外の観光客の本市への観光需要の高さに改めて期待し、回復期に向けた誘客戦略と、受入体制の強化に向け、社会情勢や観光市場の変化を見極めながら、本市と観光業界だけでなく、北宗谷地域全体が一体となった観光振興策や事業の展開を取り進めていきたい。